形」「電車」とか答えた中に、「れんらく帳」と答えた子供がいた。その父親も母親も熱心に記録を続けて下さっていた。あの子が学校へあがって二年目に父親がなくなった。連絡帳の筆跡が目に残る。

一年、二年、と続けて記録されるノートは数冊に及ぶ。この重ねられたノートを見た時、幼稚園での生活が無意味に過されなかったというよろこびがしみじみと湧き、再びかえりこない幼児期を大切にしたいとあらためて思う。

(6) その反省

当園で行っている連絡帳のあり方についても幾多の御批判はあろうと思う。毎朝、子供のもってきた帳面を全部開けて連絡を読み、急いで返事を記入するとき、至急な印刷を朝貼る場合など、時間と手がもっとほしいとしみじみ思う。

保育カリキュラムを、遞のはじめに連絡しておくことも考えられる。これはしかし、家庭がそれ等の先入観で子供に問いただすことの害をおそれて現在はやっていない。然し、計画だった保育内容を事前に通知しておくのも、望ましいことであろう。

また、派生的なことではあるが、連絡帳による連絡の徹底教育に関する諸問題の解決などがものをいって、母の会のあつまりなどでの発言が活潑に行われないといった現象がみられることなどについても、今後更に検討してゆくべきであると思う。

以上の反省も加えて、幼稚園と家庭の連絡につきお互いに研究し合い、よりよいものに進めていきたいものである。

(渋谷鶯谷さくら幼稚園長)

母の会にのぞむ

秋山ちえ子

私は仕事の関係上(NHK、婦人の時間、「私の見た事、聞いた事」)旅行に出かけることが多いが、その旅先でよく感じさせられるのは、日本の女の人の社会的訓練の乏しさと云うことである。

之は、私が今更とりたて、て云うまでもなく、色々と云いふるさ

れたことだが、どうも、一向に改められてはいない様に思われるのである。

もっとも、社会的訓練を身につけると云うことは、そう簡単に出来るわけではないし、また、社会的訓練の乏しさと云うことは、女の人より、もっと、男の人について云われなければならないことでもあろう。

疑獄と云う様な大きな問題から、お花見の酔っぱらいに至るまでどこにも、その実例はころがっている。しかし、之等の人々の社会的訓練となると、問題は複雑になってくるので、常識的な、母と子の場合を考えてみたいのである。

四月上旬、京都に行ったが、その時も、こんなことがあった。

旅行シーズンのこととて、発車の大分前から、もう座席は満員で横浜を過ぎる頃には、通路を歩くことも出来ない程の混乱ぶり。

その夜行列車の中での出来事である。

五、六才の男の子と、二、三才の女の子を連れた母親が、子供を隅によせれば、充分、三人がけも出来るのに、そんなことにはおかまいなく、子供を一人々々の席に広々と坐らせ、そればかりか、大きな荷物を置いて、座席を占領していた。

立っている人が〃そこは空いているのですか〃と尋ねると、〃人がきます〃と云って、一向に荷物をどけようとはしないまま、結局その席には、誰も現われずに、過ぎていった。

小田原近くなると、上の子供が、眠りはじめたが、その母親は、いそいそと荷物を片づけ、そこに子供を長々とねかした。

そして、それを注意した人には、〃私は、早くから並んで、この席をとったのだ〃とか、〃女だと思って馬鹿にしないで下さい〃と反対に喰ってかかる始末であった。

之に似た光景を、私はよく見かけるのである。

なるほど、母親である以上、自分の子供は大切で、可愛いいものに違いない。

少しでも、子供によくしてやり度い母親の気持はよくわかる。

そうかと云って、自分の子供だから可愛いいと云う母親の本能的な愛情が、やがて、自分の子供だけが可愛いい、自分の子供だけ幸福であったらいいと云う。利己的、排他的な感情となってくることは、決してゆるがせには出来ないことと思うのである。

之は、社会的な訓練の乏しさと云うよりも、常にせまい家庭や、家族の中にのみ押しこめられ、閉された生活を強いられてきた。日本の社会的な機構が、女の上にきざみつけた〃しるし〃と云えるだろう。

この小さな一例は、社会の中に、自分を置いて、その複雑な関係の中で、広い視野を持って物を考えると云うことが出来ない、精神

的な〃かたわ〃の、女の姿を象徴している様な気がするのである。

前置きが長くなってしまったが、話を、本論に移してみよう。

五月の声をきく様になると、新しく入園した幼児も、少しづつ、幼稚園の生活環境に馴れてきて、先生も、母親も、ホッとすることだろう。

この〃ホッ〃と、しかたが問題で、大体の母親は、子供を、幼稚園におくりこんでしまえば、何もかも、万事解決と、救われた様に考え勝ちだが、この〃ホッ〃とした機会を、ぜひ〃母親のあり方〃について、反省する時間としたいものである。

先生方も、幼児の保育と同時に、母親の教育も考え、母親の目や心の角度を、色々と、精神的に調整することを忘れてはいけないと思うのである。

〃うちの子〃に集中していた焦点を、少しづつ大ぜいの子供の上にむける様にしたいのである。

女性は、子供の誕生と共に、母としての出発があった様に、子供の入園と一緒に、母の入園があると思っていい様な気がする。

幼稚園時代の子供は、精神的離乳期にあたっているので、母親の健全な精神的母親を必要としているのである。

そこで、幼稚園では、母と子を切り離した保育と云う様なことは考えることが出来ない様に思うのである。

それが、一般には、子供が幼稚園にいく様になると、〃之でやっと家の中が静かになった〃と云う様な声をきくのであるが、この精神的離乳期を慎重に扱うか、どうかによって、子供達の一生を支配する、精神的な健康と、不健康の大もとになる根がはられることを思えば、もっともっと母親の自覚が必要だと思うのである。

赤ん坊の離乳期が、大切にされたのに比べると、少々、精神的離乳期の方は、お粗末に扱われ過ぎていないだろうか。

愛児の幸福を、精神的に守ろうとすれば、よりよき精神的母乳が考えられなければならないが、そのためには、母親が、もっと、見聞をひろめ、社会的な教養を身につけなければならないし、母親の社会活動も必要になってくる。と云っても、急に、本を沢山買ったり、見学に行ったり、映画を見たり、講演会に行くと云う様なことは、いいことで、必要だと肯定しつつも、今の家庭の状態では、なかなかむずかしいことである。

色々の条件を考えた時、やはり、母親の社会的訓練、社会活動の中心は、母の会や、P・T・Aが一番適している様に思われる。そこで、〃母の会〃のあり方として、二つの要素、つまり、その一つは、幼稚園そのものを、よりよくするための協力、もう一つは、幼児と共に入園した母親の社会活動の場として、まず母の社会的訓練

をすると云うことを、考えなければいけないと思うのである。

幼稚園の〃母の会〃は、小学校のP・T・Aが（親と教師の会）B・T・A（ボスと教師の会）と呼ばれる存在になりつつあるのに比べて、遙かに純粋性を持っているが、それでも、批判的に見るならば、今の、幼稚園の〃母の会〃は、先にあげた二つの要素の中、先の方の、運営面に協力させられることに、比重が重くかかっている様に思われる。

増築をする、ピアノを購入する、遊び道具を揃えると、その度に寄附集めやら、廃品回収、催物等々と追われて、またたく間に、一年なり二年が終っている様では、よい精神的母乳等は望むべくもない。

しかも、この様なことだけが、母の会の大事な仕事として進められていくと、それは、特定の役員や、委員が、応接室等で、友誼をあたためたり、冷したりしている様な、かたよった母の会になってしまって、沢山の母親は、依然として客観性や、社会性を持つことの出来ないままに〃かたわ〃の栄養の精神的母乳を子供にあたえつづけることになるのである。と云って、母の会は、教養講座をひらき、母親がノートと鉛筆を持って、メモをとればいいと云うのではない。

数々の教養講座も勿論結構なことである。それから、母と子と先生が、皆で楽しむことの出来る運動会、学芸会、誕生会等は、母親の社会的訓練には、最適と思われる。

しかし、この様な一年に何回と云う華かな行事の他に小さい寄り集り、例えば、組単位の〃母の会〃が開かれたり、地域別の小さな集りが開かれることが、もっとあってもいい様な気がする。

大ぜいの人の前で、発言することの苦手な母親も、十人とか、二十人位の少人数になると、案外話が出来るものである。

その小さな集りで、お互いに、自分の子供の教育についての悩みを話しあったり、他の多くの母親の経験をきくこと等、問題を出しあって話しあうことで、自分の子供を愛する気持を、他人の子供にも及ぼすことの出来る母親になる訓練が出来ると思う。

つまり、母親に一番かけている、自分の子供を客観的に見る習慣も生れてくるのである。〃母の会〃を考える時、幼稚園の運営面の片棒をかつぐだけの、片よったものにならない様に、まず気をつけることが、目下の急務ではなかろうか。

（NHK婦人の時間担当）